



## 南海トラフ地震に備えて

代表 猪塚 とも



能登半島に激震が走ってから、はや一年になる。お正月を家族と楽しく過ごしていた人、友人と初詣に行っていた人、夫婦水入らずでのんびり寝正月を送っていた人。地震は時、場所、人を選ばず襲いかかった。

家でテレビの映像を見ていた私は能登半島が沈んでしまうのではないかと恐怖に怯えた。若い頃、能登半島はバスで巡ったことがあった。海の物がおいしい、人情の厚い所だと記憶している。

ふと、他人事ではない！南海トラフがやってくるのではないかと！天気予報のように予測はできない。いつ、どういう形でやってくるか誰にもわからない。日中であれば仕事しているか、車の運転中、スーパーでお買い物中？

夕飯を食べている時、夜中なら布団で気持ちよく眠っている時？

耳に入ってくるアナウンスの情報と、もしも——という想像で一瞬足が震えた。一年がたった。

能登は復興が遅れ、

そのままの所がある。



そして、私の気持ちも  
一年前のままだ。

